

社会福祉法人 どんぐりの家  
令和2年度 事業報告

(1) 通所介護事業所

年間延べ利用者数、10,833名。

軽度の方から重度の方まで、昨年度より多くの方にご利用して頂きました。

感染症対策を徹底する事で、体操やレクリエーション等の余暇活動、納涼祭りや運動会等のイベントを行い、ご利用者が安全に楽しんで頂ける様にしました。

介護技術において、話し合いや確認を徹底する事で、全員が正しい方法を実践出来るようにしました。

接遇の面では、言葉遣いや、ご利用者に「寄り添うこと」等を重点課題として取り組みました。これは、次年度においても大切にしていきたいです。

(2) 認知症対応型通所介護事業所 どんぐりの家 絆

年間延べ利用者数、3,350名。

お陰様で、昨年度より多くの方にご利用して頂く事が出来ました。

ご利用者、お一人おひとりに合ったサービスとは何か、どのような形で支援して行くのかを、ミーティング等で協議し、現場で実践しました。

ご利用者に共感する気持ちや、寄り添う心を大切に接する事で、穏やかに安心して過ごして頂く事が出来ました。

「気持ちある対応」を実践出来るよう、言葉遣いを見直し、ご利用者の尊厳を大切にす職員の育成に努めました。

狭い空間であるが故、新型コロナウイルスを初めとする感染症対策は、特に徹底して行いました。

(3) 居宅介護支援事業所

年間延べ給付管理件数、1,210件。

コロナウイルスにより、支援業務の在り方が大きく変化した一年でした。

ご利用者や、他のサービス事業所担当者とは直接会う機会を減らし、電話や自宅ポスト、市の連絡ボックスを介して意見交換や書類のやり取りを行うことが日常的になりました。又、ご利用者が入院されると、その後一度も本人に会えず退院日を迎えることが殆どの為、退院後に改めて本人と話し、サービス再調

整というケースが増えました。

綾部市生活サポート会議や地域包括支援センター主催の事例検討会については、コロナウイルスにより、前年度に比べ開催回数は減りましたが、1年を通じ、適宜出席することが出来ました。又、里福祉をすすめる会様のわいわい集会への出席を予定していましたが、コロナウイルスにより未開催でした。

#### (4) おこしやす

年間延べ利用者数、「すこやかシニア教室」4,242名。一般利用16名。

年間を通じ、午前中は「綾部市すこやかシニア教室」として、運動・口腔・栄養をテーマに取り組み、午後は体や頭を使ったレクリエーションや、季節感を大切にした取り組みを行いました。

新しい取り組みとして、自宅でも行える新型コロナウイルス感染症対策を共有し、その予防に努めました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、一般のお客様は、すこやかシニア教室の体験利用のみとなりました。

#### (5) 配食サービス

おひとり暮らしや高齢者世帯を対象に、年間、昼食弁当5,663食、夕食弁当5,207食、合計10,870食配達しました。

夕食弁当は、既存の利用者を通じて新規利用者を紹介して頂き、当初の予想を大きく上回る結果となりました。また、吉美地域だけでなく、少しずつですが配達範囲を広げる事も出来ました。

ご希望があれば、お弁当の配達時に安否確認も行うなど、「地域の見守り」という役割も果たす事が出来ました。